

新潟・船戸桜田遺跡

- | | | |
|---|---------------|----------------------------------|
| 1 | 所在地 | 新潟県北蒲原郡中条町 <small>ふなと</small> 船戸 |
| 2 | 調査期間 | 第二次調査 一九九九年（平11）八月～十二月 |
| 3 | 発掘機関 | 中条町教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 吉村光彦 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡・祭祀跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 六世紀、八世紀～九世紀 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む船戸川の流域に位置する集落跡である。本誌第二号に報告した船戸川崎遺跡の約一・五km上流



ていたと考えられる。調査区の南方に川が西流しており、その右岸に集落が位置していた。

この川からは、木簡(1)～(3)のほか、須恵器・土師器・木製品などの多くの遺物が出土している。

この川からは、木簡(1)


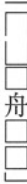


器・木製品などの多くの遺

物が出土している。

墨書土器としては、須恵器には「村」五点、「廣」三点、「古」二点など計一三点以上、土師器には「木」三点、「王」一点以上がある。また漆書き須恵器も一点認められた。さらに川底から人面墨書土師器小甕が出土し、周囲で土錘二点と鑊羽口が発見されている。木製品としては、六八点もの盤が出土しており（川以外の出土を含む）、「千」の焼印二点と「大」の刻書が認められた。また、蓋四点及び稜鉢も出土しており、注目される。時期的には、八世紀後半から九世紀が主体となる。

なお木簡(4)は川ではなく、溝の上層より出土している。

河川

- | | | | |
|-----|--|------------------------------|-----|
| (1) |  | $333 \times 26 \times 5$ | 051 |
| (2) | 〔合榎五石五斗〕 | $(262) \times (30) \times 9$ | 081 |
| (3) | •
〔  舟  〕 | $154 \times 25 \times 8$ | 011 |
| (4) | 溝
•
〔  〕 | $165 \times 20 \times 8$ | 051 |

$$(262) \times (30) \times 9 \quad 081$$

(3) ☐ ☐ ☐ 舟 ☐ ☐

1001

154×25×8 011

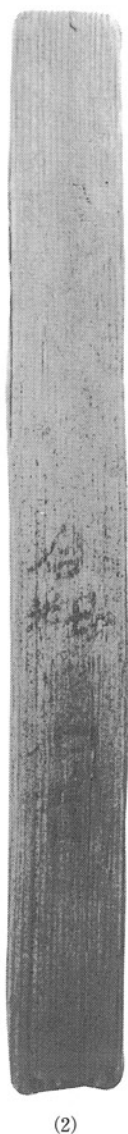
溝

(4) 「麻続マ宿奈万呂」

165×20×8 051



(1)



(2)

(いずれも赤外線画像)



(4)



(3)表

(1)は、下端を尖らせる長い木簡で、上半に墨痕が認められるが、墨が薄いため判読できない。下部に折ろうとした痕跡がある。
(2)は、木簡の中位から下方に墨書している。下端及び左側面を欠

損している。厚さは、左端が4mm右端で9mmと、一定しない。

(3)は、上方から縦に切り込みを入れ、一部を折りつつている。

(4)は、完形の付札木簡である。ウヂ名「麻統部」は、越後では初見である。下方に行くにしたがい、薄くなる。向かって左中位及び下方に木釘を打ち込んだ痕跡があり、中位には木釘が遺存している。前面から裏面中央付近へと斜めに打ち込んでおり、木製品に打ち付けたものと思われる。

なお、木簡の釈読及び内容については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏のご教示によった。

(水澤幸二)